



## 約束の水

東京・小金井市にある現代座ホールで公演されたNPO現代座による合唱構成劇『約束の水』には強く胸を打たれた。先に取り上げたことがある川崎平右衛門を中心とした協同活動によって武蔵野台地の新田開発を成功に導く話『武蔵野の歌が聞こえる』と同じ作・演出 木村快、音楽 岡田京子という知る人ぞ知る名コンビによる作品である▼日系ブラジル人である若い女性ミツコが山間僻地で今は無人地区となっている谷山村を訪ねてくる。ミツコは戦前に谷山村からブラジルに移住した女性の孫であるが、ミツコのおばあちゃんは、ふるさとの村の「約束の水」という湧き水を飲みたいと語って息を引き取ったという。ミツコはその「約束の水」を捜しにはるばる谷山村にまで足を運んだもので、そこでさまざまな人々に出会い、昔の記憶をたどってもらってついに「約束の水」を発見する▼「約束の水」を思い出してくれたのが、街での暮らしになじめず、昔住んだ谷山村の家に家族に黙って出かけ、家を手直ししたり、畑仕事をしている老人・三郎である。三郎が「約束の水」を思い出すまでの過程で、今では山も川も荒れ果て、自然を支える水も失われてしまった。自然とともに生きてきた時代は貧しい時代だったといわれるが、「豊かな自然が心を支えた時代」であったことが示唆される▼今回総選挙はアベノミクスの評価が最大の争点とされる。当たり前の人間の本音を汲み取ってくれる政党がないのが口惜しい。「いつもそばに水があつた あのころの暮らし 人は心のなかで 水を探しつづけている」 (土着菌)